

科学技術の潮流

(285)

JST研究開発戦略センター

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

産学橋渡しの多様性と深化②

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

実装に向け知財権増強

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

専門人材が不足

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(横断・融合グループ) 満生 昌太

九州大学大学院農学研究科修士修了。大手食品企業において、国内外の研究所などの部門長、執行役員を務めた後、24年より現職。科学技術・イノベーションエコシステムの調査を担当。博士(農学)。

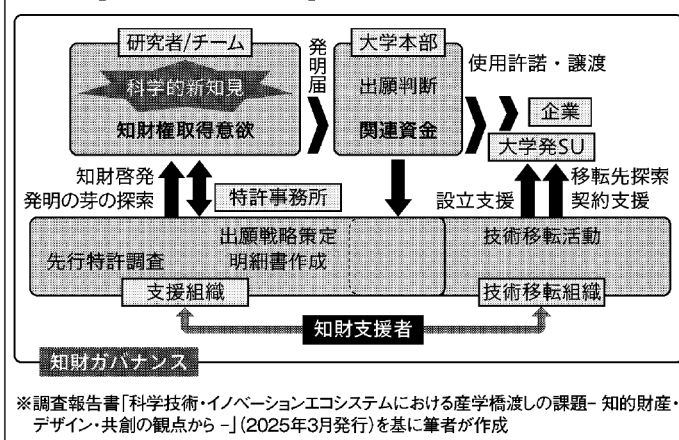
ている。このうち、プロセス全体に影響する「知財支援者の数的・質的不足」について、現状および改善に向けて、財権化、技術マーケティング、そして企業な

外部化も選択肢

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

産学連携で企業が大数の・質的不足」「海外特許出願などのための資金不足」などの点

大学における知財マネジメントプロセス



人材が有する知見やノウハウを大学が組織的に蓄積する必要もあるが、限られた任期での雇用が大半であるため継承が難しく、新たに育成する余裕もないの

克服しつつある。活動の外部化により大学と異なる雇用条件で人材を採用し、より長期の在籍を可能としている。また、これらの企業では他ではなかなか経験できないスタートアップ(SU)設立に

の課題が解決に向かっている好事例と言える。各大学の実情の違いを踏まえることが前提ながら、知財支援組織の外部化は今後の一つの選択肢になると言えよう。

(金曜日掲載)